

福島県に住むひとりの おかあさんのつづき

おでこちゃんずのママ（福島県）

今私の隣で、すやすやともうすぐ2歳になる息子が眠っています。

この子は、2011年3月11日のあの日、生後4カ月とちょっと。今まで色んな遠くへ連れて外で遊ぶ事を体験させました。しかし未だ我が家の庭に出た事がありません。庭の木製デッキはまだ新しく、長男が3年前の夏、初めてプール遊びをしました。私も庭の草や花を愛でるのが楽しみの一つでした。今、この庭は放射性物質が降り、浸み込んでしまい、放射線量は約2・7マイクロシーベルト

／時のちょっと恐怖の庭です。なので、お母さんとして今はこのお庭で遊ぶ事はやめさせています。洗濯物もこの庭にはまだ干してないのでお天気はあまり関係ありません。

震災から一年半。私の住むここは変わってしまいました。一見戻ったように見えるけれど、目に見えないモノ、感じるモノが変わってしまいました。きつと完全には戻らないでしょう。外の草花や土を触ったらダメ、と注意する事、代わりに室内遊び場や室内砂場で遊び、週末には100km離れた場所へ時には線量計を持ち、いつも線量バッジを持参してお出かけです。水や食べ物放射能を気にする事。まさかこんな検査するだろうかと思像していなかった子どもの健康検査をずっとする事。引越して行く人の話をあきもせず聞く事。これらが私達の等身大の日常です。

震災から一年半。皮肉だけれどこの震

災があったからこそその宝物の出逢いがたくさんありました。人・愛情・想い・絆・気付き・力；色んな出逢い。遠い場所に住む同じ「お母さん」という立場の人々と、今の私たちには特別になっている外遊びなどを通して一緒に過す中で「お母さん」として語り合い共感し、人の愛情に感動した事も身を持って体験させて頂きました。親も子も、ずっと繋がれる心の親友が出来ました。地元では、ごく身近な大人たちの頑張りや何より家族の存在、何が必要なのかをシンプルに考え、自分の心を育てていく大切さに気付かされました。それらの事を胸に、放射能に汚染されているという無視できない現実にも向き合い、皆と繋がりに支えられながらお母さんは、少しずつ前に進んでいます。

いつだって、どこだって子どものパワーは何にも負けていません。もちろん放射能にだって負けていません。明るい太陽のよ

うな笑顔は不自由な事があったとて、へこたれて無くなる事はまずありません。むしろ大人たちの不要な不安とか、詮索とかそういう事で子どもの笑顔を曇らせちゃいけないと、やっと思えるようになりました。成長している我が子を見守れる幸せはこの上ありません。親ってこんなに幸福感を味わえるんだなあといつも子どもに気付かされます。どうか、このまま心も体も逞しく育ってほしいと願います。そしていつか巣だって行く日を元気に迎えられるように今、母はあなたたちを守ります。

